

第七章 駿豆地方における先土器時代遺物

駿豆地方における先土器時代遺物、すなわち旧石器の発見は近年著しく増加している。その多くは表面採集であるが、学問上無視できない良好な資料がきわめて多い。そこでこの小塚遺跡の報告に際して、当地方の旧石器の中から主要なものを選り、実測図を中心に紹介して、対比の資料とし、また御参考に供したいと思う。一応遺跡別にごく簡単に解説を付すが、大急ぎでまとめたため、市町村別に必ずしも整然と記述できなかったことはお許し願いたい。なお各遺跡の所在地については、地図のほか第七章の地名表を参照されたい。

扇平A遺跡（三島市、地図No.6）——第33図1～8・第34図1～8

幅広の剥片を主とする遺跡で、全て粗質の黒耀石が用いられている。第34図1・2のごとく剥片の一部に刃潰し剝離による細部加工が施されたナイフ形石器がある。しかし定形化されたナイフ形石器は採集されていない。

観音原遺跡（三島市、地図No.10）——第34図9

ナイフ形石器一点が採集されている。良質の黒耀石製で、刃部の一部を欠損している。全長四・〇センチメートル。

扇平B遺跡（三島市、地図No.7）——第34図10

基部を欠損したナイフ形石器が一点採集されている。現長二・三センチメートル、硅質頁岩製。

扇平C遺跡（三島市、地図No.8）——第34図11

安山岩製の揉錐器一点が採集されている。これは、剥片の周縁部に細部加工を施し、一部を突出させて錐部とし、錐部の断面形はD字状をなしている。全長四・四センチメートル。

観音洞遺跡（三島市、地図No.9）——第34図12～14

ナイフ形石器三点が採集されている。すべて小形のナイフ形石器で、12は安山岩系石材製、13・14は粗質の黒耀石製である。12は全長二・八センチメートル、13は基部を若干欠損しており現長二・八センチメートル。14は全長二・二センチメートル。

コスゲA遺跡（三島市、地図No. 1）―第35図1

安山岩製のナイフ形石器一点が採集されている。これは非調整打面と打瘤を有し、先端部と基部に若干の刃潰し剝離がなされている。全長四・九センチメートル。

コスゲB遺跡（三島市、地図No. 2）―第35図2

ナイフ形石器一点、搔器一点、剥片三点が採集されている。全て安山岩が用いられており、2は基部を欠損したナイフ形石器で現長二・七センチメートル、3は剥片の一端に細部加工の施された搔器で、全長五・一センチメートル。4・5は剥片である。

ナーゴ山遺跡（三島市、地図No. 5）―第35図6～8

中林山遺跡・萩ヶ窪遺跡とも呼ばれ、ナイフ形石器が三点採集されている。6・8は良質の黒耀石製で、7は安山岩製である。6は、剥片を斜めに刃潰し剝離を施して脊部としており、全長三・七センチメートル、7は剥片の片縁辺を弧状に刃潰し剝離を施し、先端部と基部を尖らせてある。全長四センチメートル。8は先端部を欠損しており、基部裏面には内彎した剥片が平らになる様に調整されている。現長二・八センチメートル。

三島辻遺跡（三島市、地図No. 3）―第35図9

ナイフ形石器一点が採集されており、黒耀石の円礫より剝離された剥片から、ナイフ形石器を製作されていることをものがたる自然面を一部に有する。全長三・七センチメートル。

鎌ヶ沢遺跡（三島市、地図No. 11）―第35図10・11

尖頭器が二点採集されている。10は片面加工の尖頭器で全長一・九センチメートル、黒耀石製。11は両面加工の柳葉形の尖頭器で安山岩製。全長九・七センチメートル。

山中A遺跡（仮称三島市、地図No. 12）―第35図12

ナイフ形石器一点が採集されている。全長三・四センチメートルで良質の黒耀石製である。

願合寺遺跡（三島市、地図No. 13）―第35図13・14

ナイフ形石器一点と尖頭器一点・細石核一点が採集されている。13は片面加工の尖頭器で全長二・六センチメートル。安山岩系石材製。14は黒耀石製の円錐形細石核で十数条の剝離痕を有す。

山中D遺跡（仮称三島市、地図No. 15）―第35図15

ナイフ形石器一点が採集されている。黒耀石製の切出形ナイフ形石器で、全長二・四センチメートル

笹原D遺跡（仮称三島市、地図No. 16）―第35図16

黒耀石製のナイフ形石器が一点採集されている。片縁辺のみに刃潰し剝離が施されており、全長二・四センチメートル。黒耀石製。

山中C遺跡（仮称三島市、地図No. 14）―第35図17～19

小形のナイフ形石器二点と尖頭器一点が採集されている。17は全長二・七センチメートルで安山岩製。18は全長一・九センチメートルで粗質の黒耀石製であり、19は半両面加工の尖頭器で、現長五センチメートル。硅質頁岩製。

海老ノ木平遺跡（三島市、地図No.17）―第36図1～6

ナイフ形石器四点と尖頭器一点、細石核一点が採集されている。ナイフ形石器は4が先端部を欠損しているが、他は完形・石材は1・2・4が粗質の黒耀石製で、3が安山岩系石材製である。5は粗質の黒耀石製で、剥片の両縁辺を細部加工を施した半両面加工の尖頭器である。全長四、四センチメートル。6は半円錐形の細石核で、七条の剝離痕を有す。

御座松遺跡（三島市、地図No.18）―第36図7～12

ナイフ形石器三点と搔器二点・彫器一点・石核一点が採集されている。7・8・10はナイフ形石器で、いずれも基部が先端部を欠損しており、7・8は粗質の黒耀石製である。9は小形の拇指状搔器で一端に細部加工が施されている。良質の黒耀石製で全長二・六センチメートル。11は彫器で一端が、槌状剝離によって彫刻面をなしている。全長五・三センチメートル。硅質頁岩製。12は良質の黒耀石製の石核である。

トビノス遺跡（三島市、地図No.19）―第36図13～17・第37図1～8
ナイフ形石器八点と尖頭器五点が採集されている。第36図13～17・第37図1～3はナイフ形石器で、器長は五・八～三・三センチメートルとやや大きい、形状は一定ではない。石材も粗質の黒耀石製が三点、安山岩製三点・良質の黒耀石製二点と統一性がない。第37図4～8は尖頭器で、4は片面加工、8は半両面加工で他は両面加工の尖頭器である。

馬場遺跡（三島市、地図No.20）―第37図9～22・第38図1

ナイフ形石器十点と尖頭器五点が採集されている。第37図9～18はナイフ形石器で、器長はほとんど二～三センチメートル前後で小形のものである。第37図19～22・第38図1は尖頭器で、第37図19・20は片面加工、21は半両面加工で、第37図22と第38図1は両面加工の尖頭器である。

庚申松遺跡（三島市、地図No.21）―第38図2～26・第39図1～19・第40図1～4

第38図2～26・第39図1～8はナイフ形石器で、二十三点採集されており、一般に小形のもので、器長は四・三～二・五センチメートルと形状もバラエティーに富んでいる。石材は良質の黒耀石が最も多く用いられ、粗質の黒耀石がこれに次ぎ、以下安山岩の順になっている。第39図11～13は尖頭器で、粗い両面加工のもの一点と、剥片等の周縁に浅い加工を施したものの二点があり、いずれも安山岩製である。第39図9・10は細石刃で、いずれも表面に二条の稜線を有する。黒耀石製、第39図14～17は搔器で、いずれも内彎した剥片の一端に細かい細部加工を施して刃部とし、一部には抉入りが施されている。比較的小形の拇指形搔器である。第39図18は彫器で、剥片の周縁に細部加工を施し、その一端より安山岩製、三条の槌状剝離によって彫刻面を成している。第39図19・第40図1・4は石核で、半円筒形石核であり、第39図19と第40図4は上下に調整打面を有する。第40図2・3は細石核で、2は半円錐形、3は円錐形を呈する。共に黒耀石製。

台崎A遺跡(三島市、地図No.22) — 第40図5・6

5・6共にナイフ形石器で、6は三島市誌に記載されていたものを転写したものである。6は黒耀石製。5は硅質頁岩製。

台崎C遺跡(三島市、地図No.23) — 第40図7

粗質の黒耀石製ナイフ形石器一点が採集されている。剝離に統一性のない剝片の一部に刃潰し剝離を施したものである。

赤松遺跡(三島市、地図No.24) — 第40図8・9

尖頭器一点と小形のナイフ形石器が採集されている。尖頭器は粗い剝離で両面に加工されているもので、片側縁部がふくらみをもつものである。

カシラガシ遺跡(三島市、地図No.26) — 第40図10・11

ナイフ形石器が二点採集されている。10は黒耀石製で基部と先端部に若干刃潰し剝離による細部加工が施されている。11は硅質頁岩製で剝片の片側縁部は粗い加工によって刃部としている。

奥山遺跡(三島市、地図No.25) — 第40図12・15

12は比較的大きい切出形のナイフ形石器で13・14は小形のナイフ形石器である。すべて良質の黒耀石製である。

北原遺跡(三島市、地図No.27) — 第41図1・24・第42図1

ナイフ形石器二十点と尖頭器一点・抉入り削器一点・石核二点が採集されている。第41図1・17・19・21はナイフ形石器で、器長は四・八・二・三センチメートルで、四センチ以上の器長のナイフ形石器が多く、比較的大きいナイフ形石器である。形状はバラエティーに富み、

良質の黒耀石製がほとんどである。第41図24は粗質の黒耀石製の尖頭器で、剝片の両側縁部より片方へ剝離を施した半両面加工の尖頭器で下半を欠損している。第41図22は剝片の一部に抉入りを施した抉入り削器でチャート製。第41図18・23、第42図1は半円筒形の石核で、調整打面を有し、五・十條の剝離痕が認められる。第41図23は硅質頁岩製。18は安山岩製、第42図1は良質の黒耀石製である。

初音ヶ原A遺跡(三島市、地図No.28) — 第42図2・18

ナイフ形石器十五点と搔器二点が採集されている。第42図2・16はナイフ形石器で器長、形状も変化に富む。器長は四・九・二・五センチメートルで、二・三センチメートルのものが多い。12・14・16は切出形のナイフ形石器である。17・18は搔器で、17は周縁に細部加工を施し、一端が突出して揉錐器となっている。

6 初音ヶ原B遺跡(三島市、地図No.29) — 第42図19・27・第43図1・

ナイフ形石器十三点と削器一点、石核一点が採集されている。第42図19・27・第43図1・3・5はナイフ形石器で、器長は四・二・一・二センチメートルで、先端部もしくは基部を欠損したものが多く、小形のナイフ形石器である。石材は良質の黒耀石が主である。第43図4は削器で剝片の周縁に粗い細部加工が施されている。第43図6は安山岩製の半円錐形石核で五條の剝離痕が見られる。

初音遺跡(仮称。三島市、地図No.30) — 第43図7・8

ナイフ形石器で二点が採集されている。共に先端部を欠損しており、

ナイフ形石器六点と彫器一点、細石刃一点、細石核一点、尖頭器二

尖頭器が二点採集されており、共に硅質頁岩製で、基部が丸味をもつ両面加工の尖頭器である。17は全長六・七センチメートル。18は四

・四センチメートルで小形である。

天神原遺跡（賀茂郡南伊豆町、地図No.45）―第49図1

安山岩製の尖頭器一点が採集されている。先端部を欠損し、粗い両面加工の尖頭器である。

猫山遺跡（沼津市平沼）―第46図19

ナイフ形石器一点が採集されている。

尾尻遺跡（駿東郡長泉町）―第46図20・21

黒耀石製の円錐石核が二点採集されている。

大廓遺跡（沼津市柳沢）―第47図1、23

ナイフ形石器が二十三点採集されており、器長は四・七―二・五センチメートルで、比較的小形のナイフ形石器である。形状も変化に富み良質の黒耀石製がほとんどである。

伊良宇根遺跡（沼津市、地図No.48）―第48図1―24

ナイフ形石器二十二点と搔器一点・石核一点が採集されている。第48図1―22はナイフ形石器で、器長は三・六―二・一センチメートルで小形のものである。形状も変化に富み、良質の黒耀石製がほとんどである。23は搔器で内彎した剝片の一端に細部加工を施してある。チャート製。24は頁岩製の石核で三条の剝離痕を有する。

久保上遺跡（沼津市東椎路）―第48図25・26

ナイフ形石器一点と尖頭器三点が採集されている。25は良質の黒耀石製のナイフ形石器で先端部は裏面より細部加工が施されている。26は粗い両面加工の尖頭器で基部を欠損している。安山岩製。

小森遺跡（富士郡芝川町）―第49図2、5

2は尖頭器様石器で、3は有舌尖頭器、4は尖頭器、5はナイフ形石器で全て良質の黒耀石製である。（有舌尖頭器は参考として記載した。）

千居遺跡（富士宮市）―第49図6

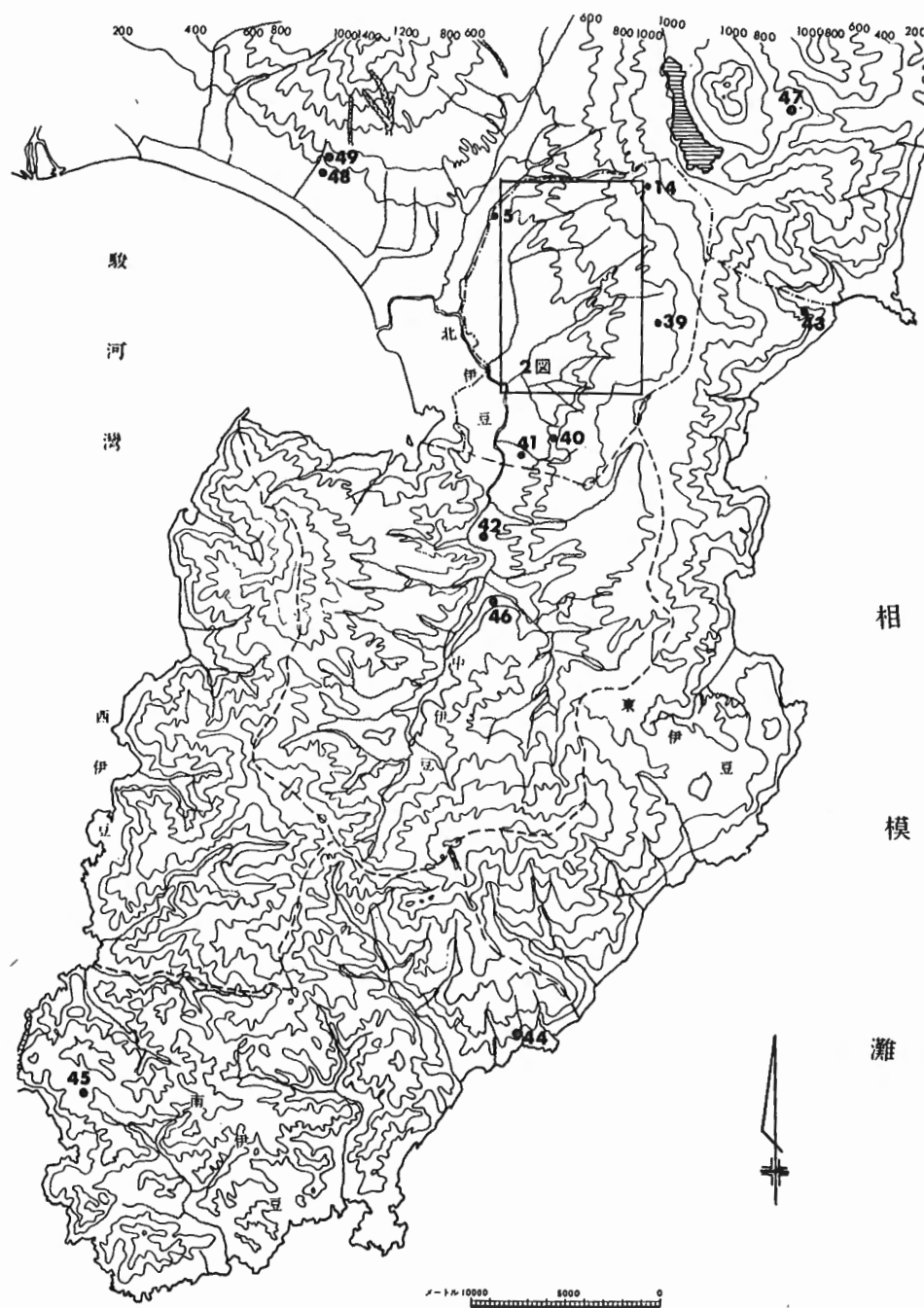
第二次発掘調査で出土したナイフ形石器で、器長は二・六センチメートルと小形であり、玉髓系石材を用いている。

クズ原沢遺跡（沼津市足高）―第49図7、11

ナイフ形石器・尖頭器・彫器・石核等が採集されている。7・8はナイフ形石器、9は彫器、10は剝片の周縁部に細部加工を施した尖頭器、11は石核である。

休場遺跡（沼津市足高）―第50図、第52図

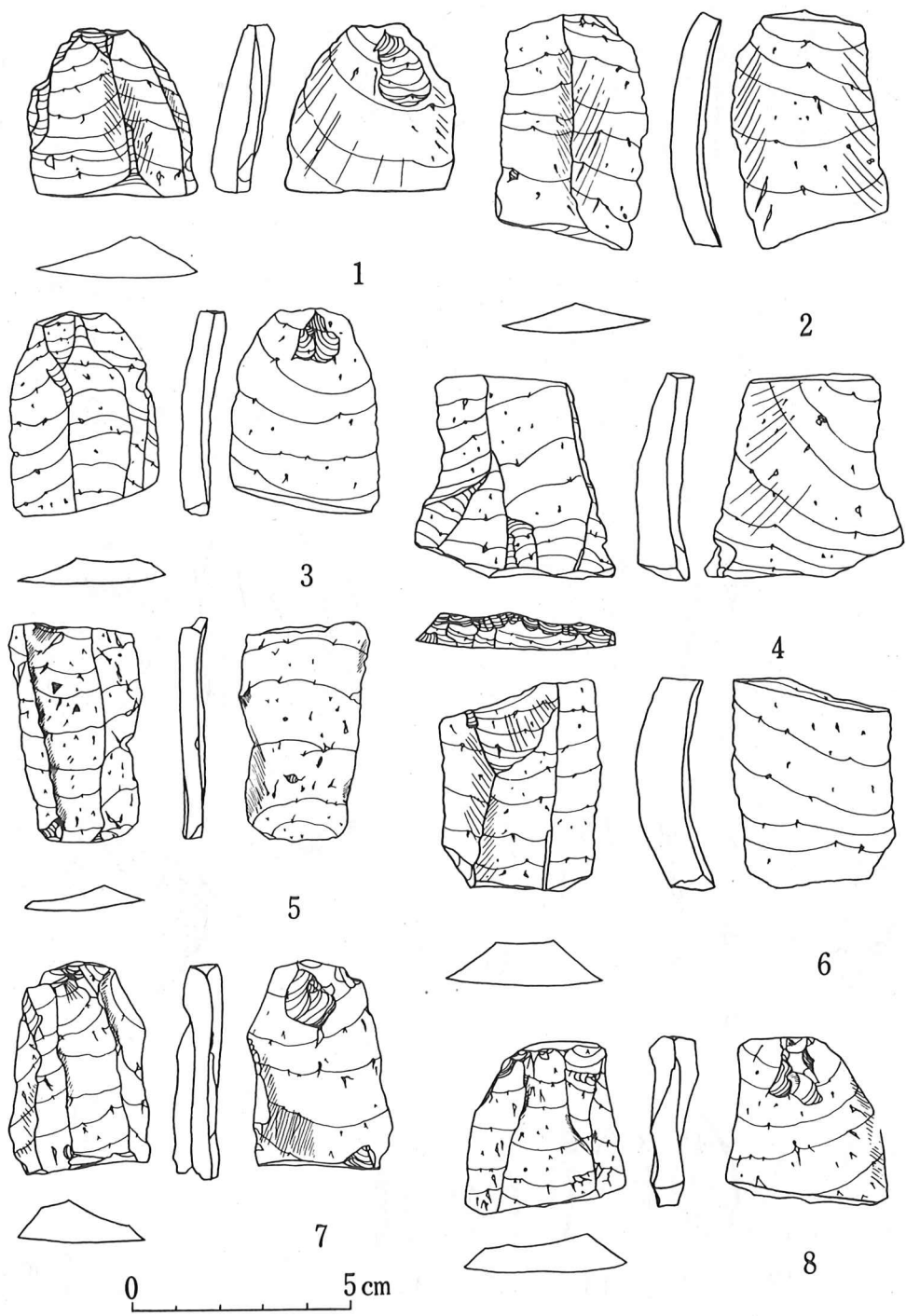
昭和三十九年、明治大学考古学研究室と沼津女子高校考古館共催にて発掘され、約四千点の石器及石屑を出土したが、その中の一部を、考古学集刊第三巻第二号より転載させて貰った。細石刃・細石核・ナイフ形石器・尖頭器・搔器・爪形石器などを出土している。



第31図 遺跡分布図(1)

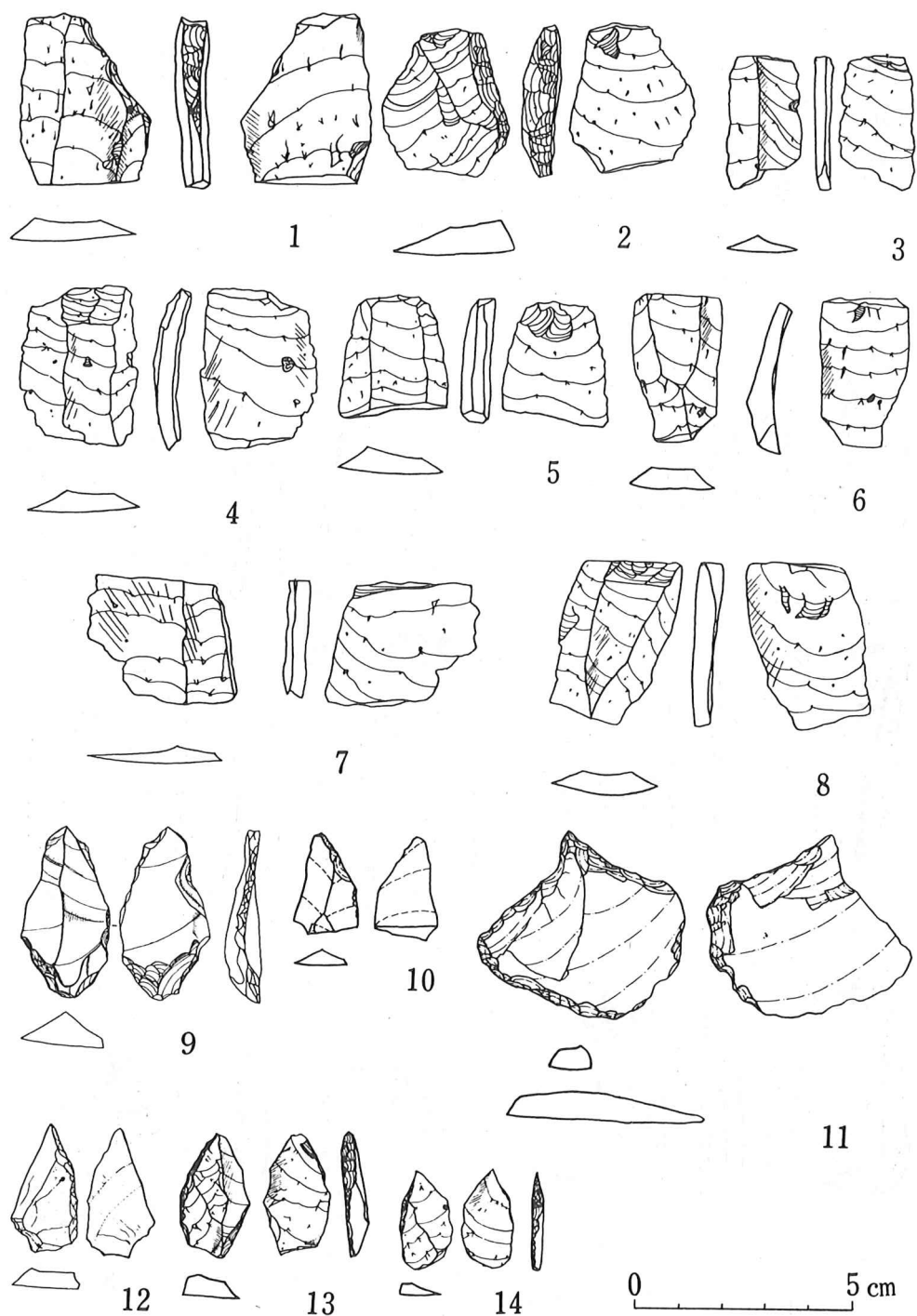


第32図 遺跡分布図(2)



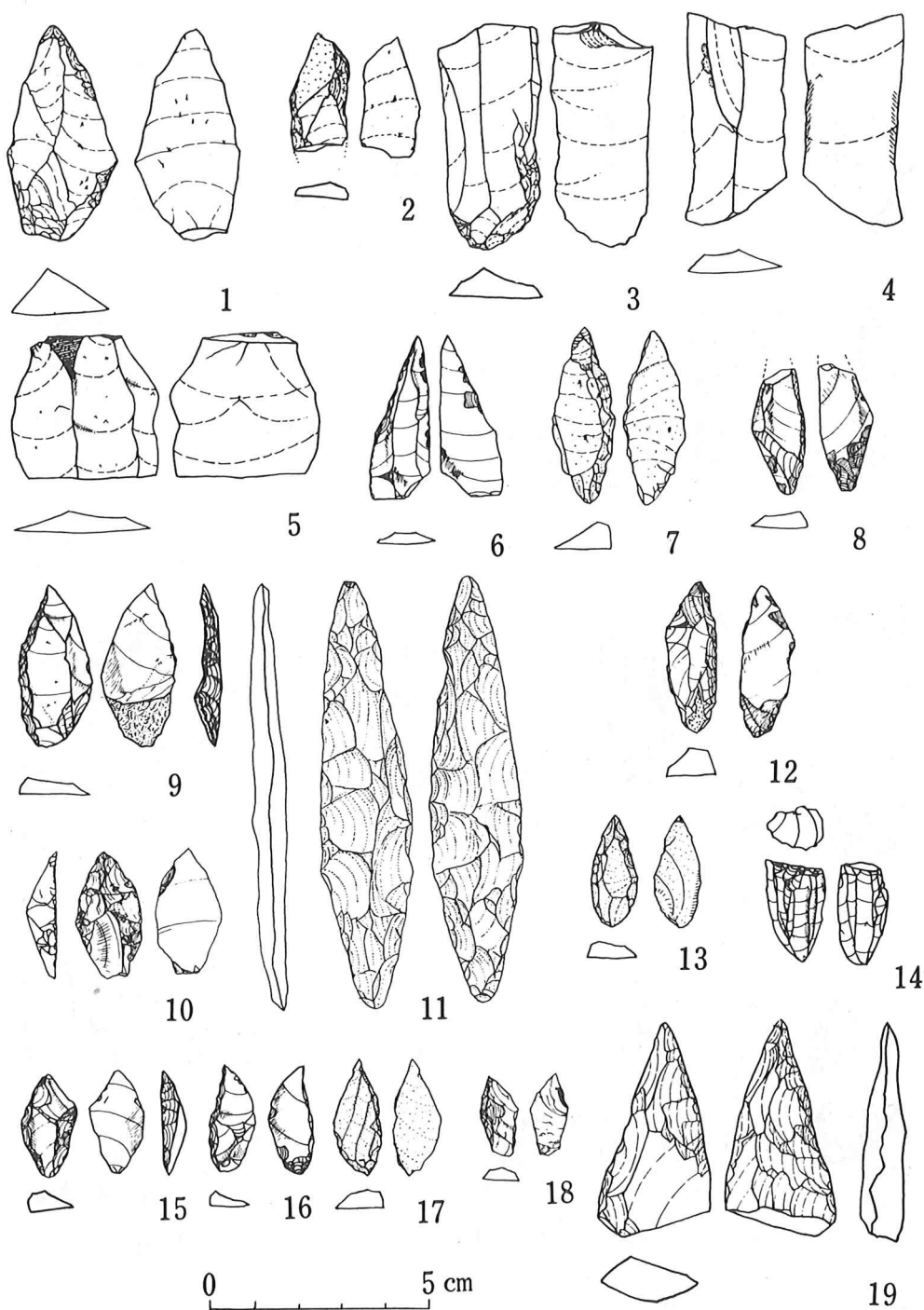
第33図 駿豆地方の旧石器実測図(1)

1～8—扇平A遺跡(1～8剥片)



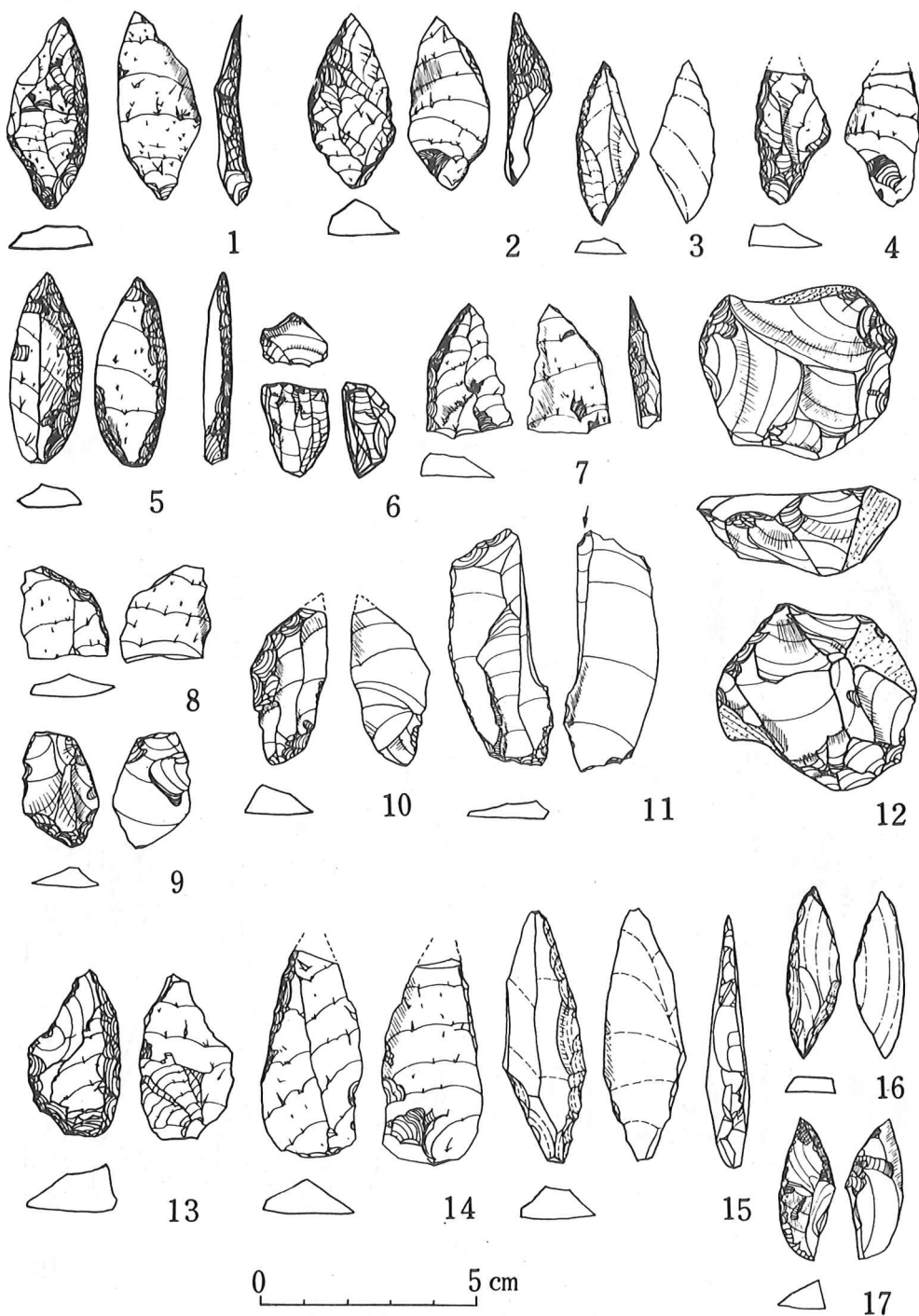
第34図 駿豆地方の旧石器実測図(2)

1～8—扇平A遺跡, 9—観音原遺跡, 10—扇平B遺跡, 11—扇平C遺跡, 12
～14—観音洞遺跡(1・2・10・12～14—ナイフ形石器, 11—揉錐器)



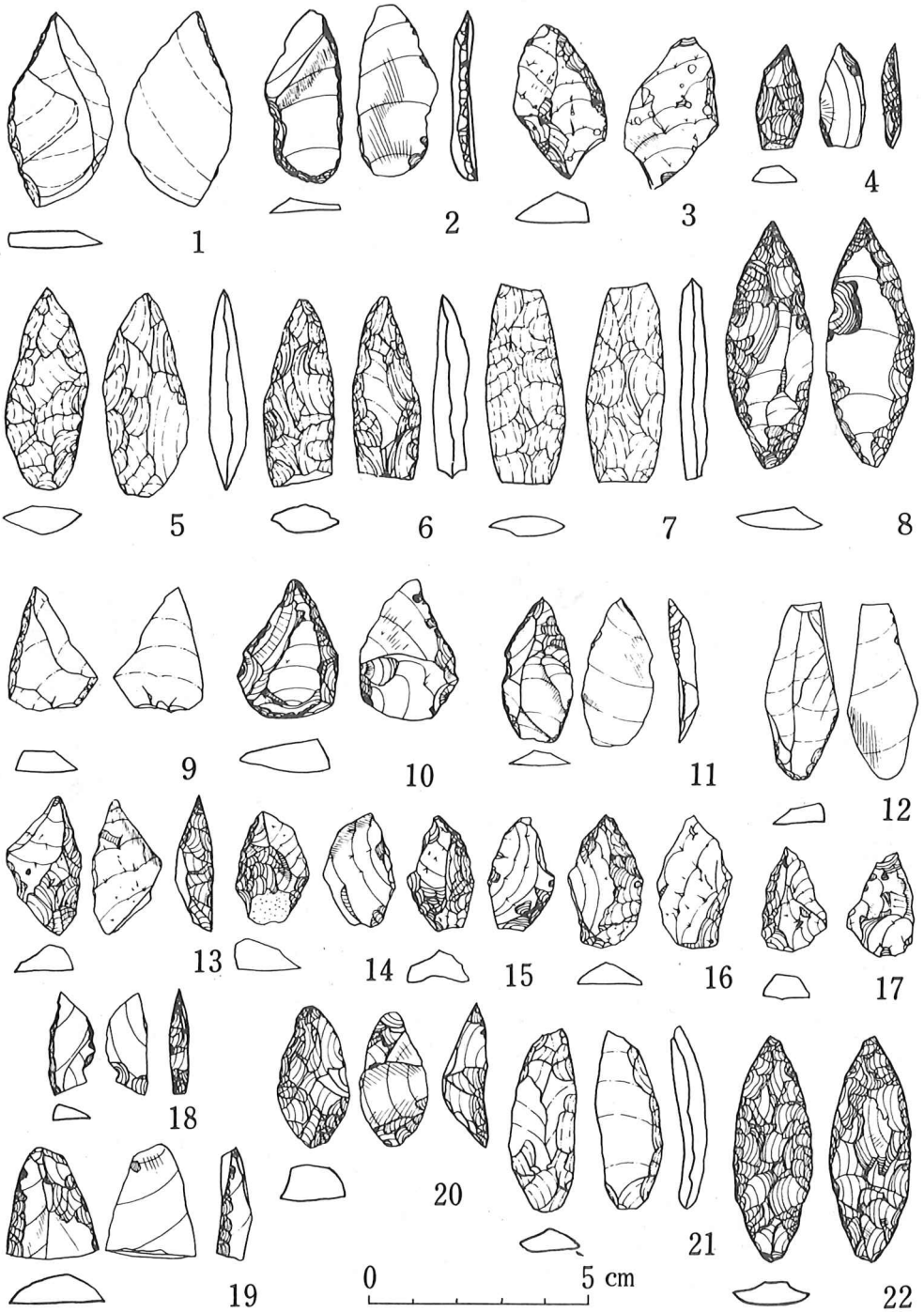
第35図 駿豆地方の旧石器実測図(3)

1—コスゲA遺跡, 2~5—コスゲB遺跡, 6~8—ナーゴ山遺跡, 9—三島辻遺跡, 10・11—鎌ヶ沢遺跡, 12—山中A遺跡(仮称) 13・14—願合寺遺跡, 15—山中D遺跡(仮称) 17~19—山中C遺跡(仮称) (1・2・6~8・9・12・15~18—ナイフ形石器, 3—搔器, 4・5—剥片, 10・11・13・19—尖頭器, 14—細石核)



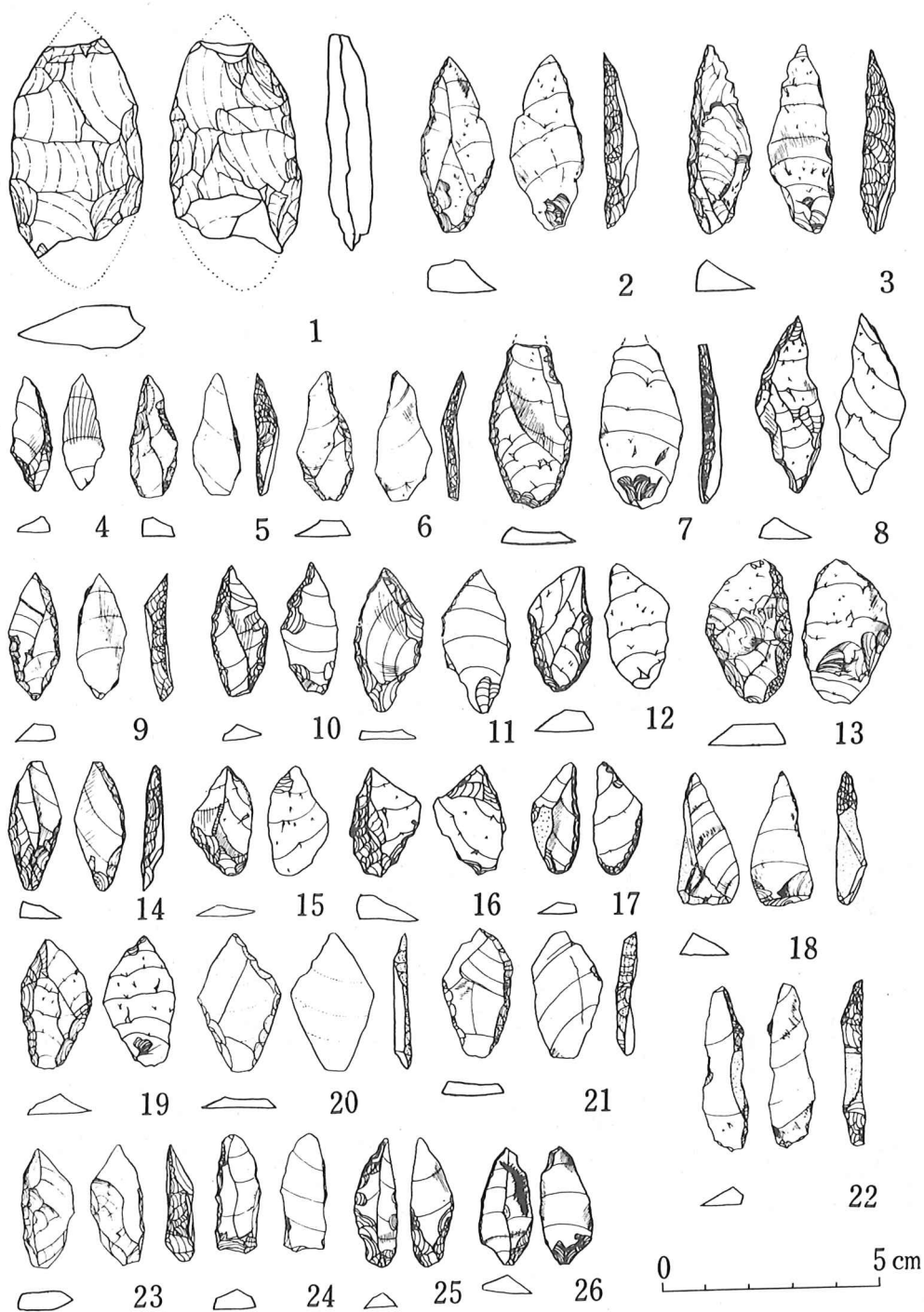
第36図 駿豆地方の旧石器実測図(4)

1～6—海老ノ木平遺跡, 7～12—御座松遺跡, 13～17—トビノス遺跡(1～4・7・8・10・13～17—ナイフ形石器, 5—尖頭器, 9—搔器, 11—彫器, 12—石核, 6—細石核)



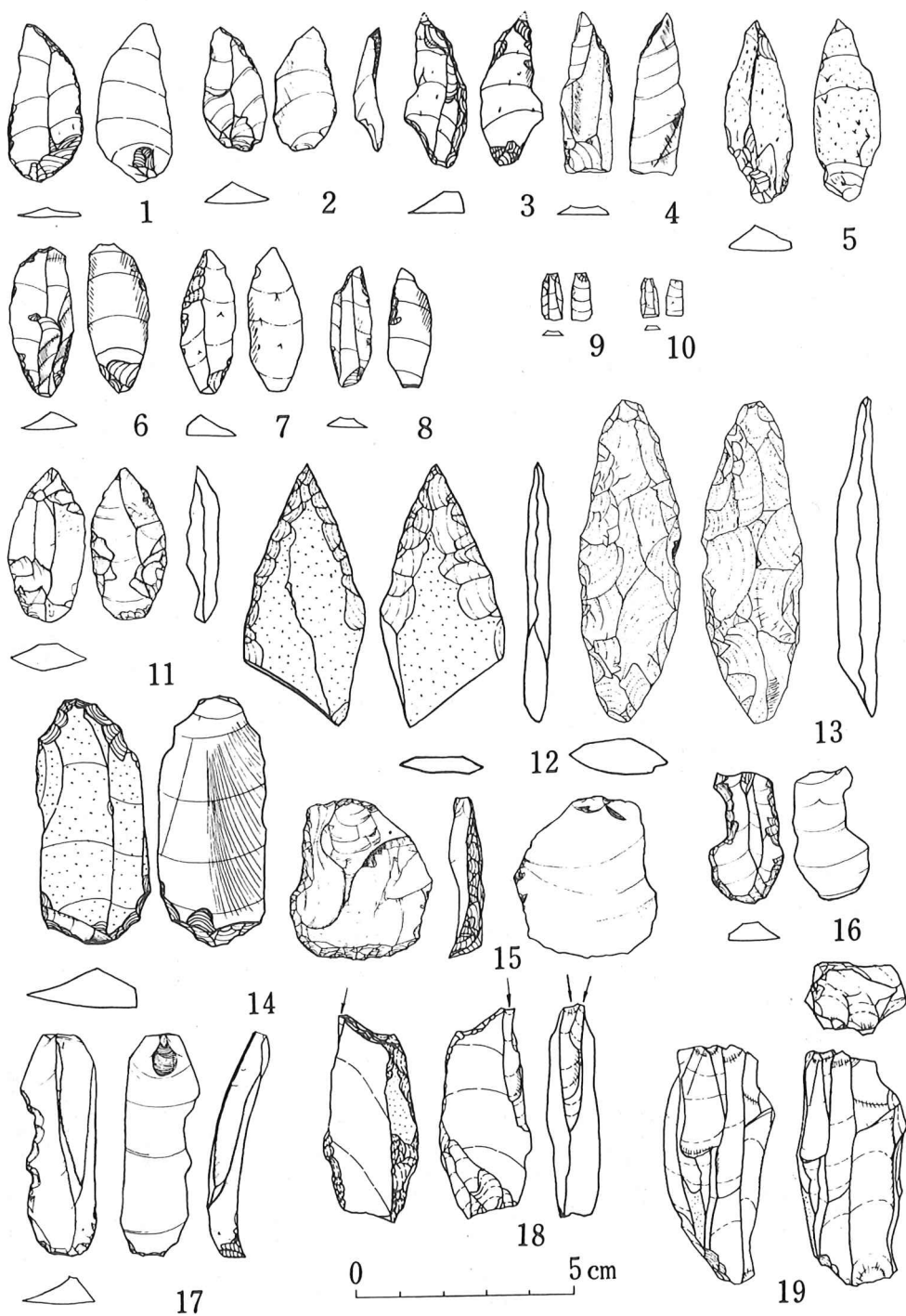
第37図 駿豆地方の旧石器実測図（5）

1～8—トビノス遺跡, 9～22—馬場遺跡（1～3・9～18—ナイフ形石器, 4～8・19～22—尖頭器）



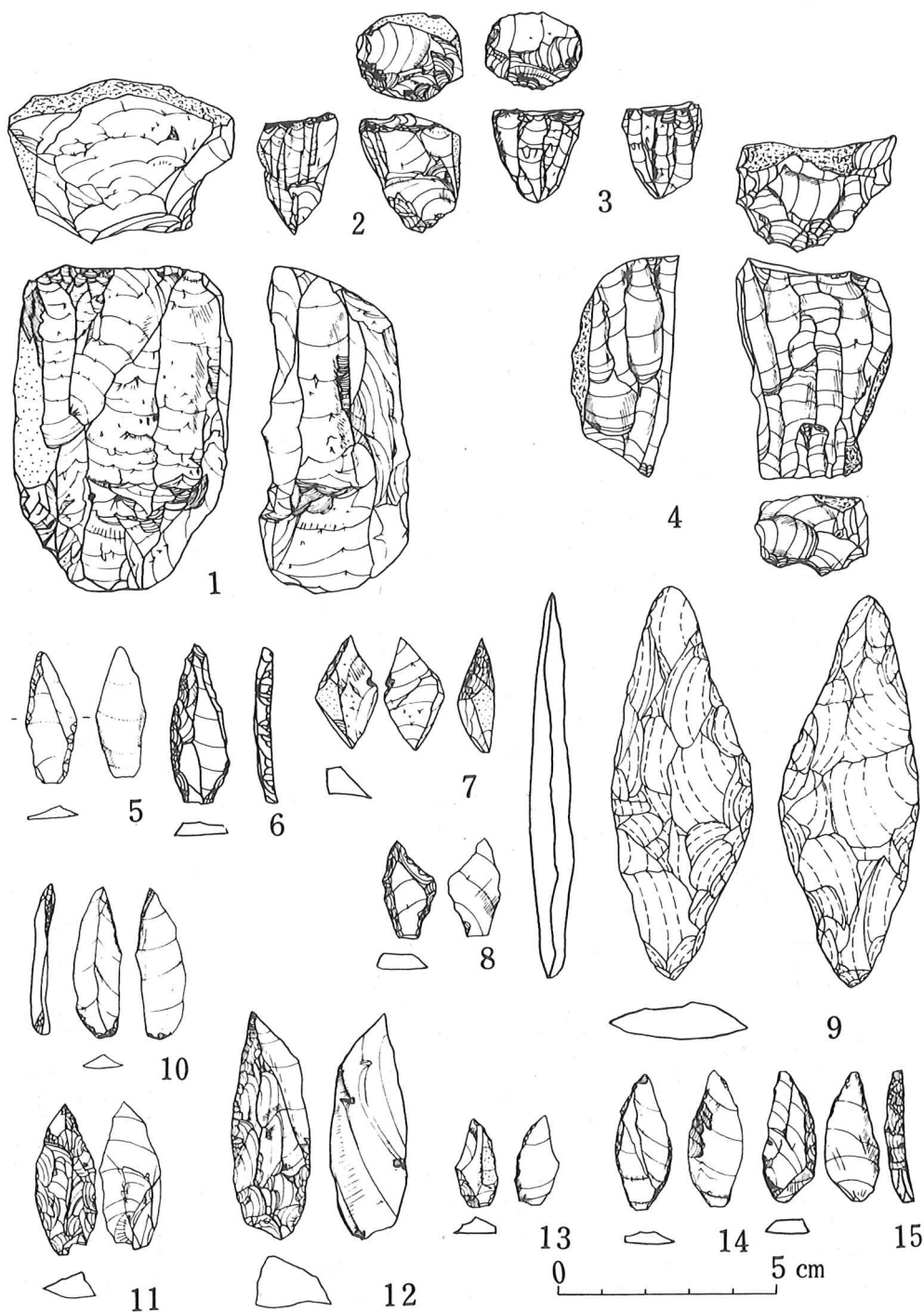
第38図 駿豆地方の旧石器実測図(6)

1—馬場遺跡, 2~26—庚申松遺跡(1—尖頭器, 2~26—ナイフ形石器)



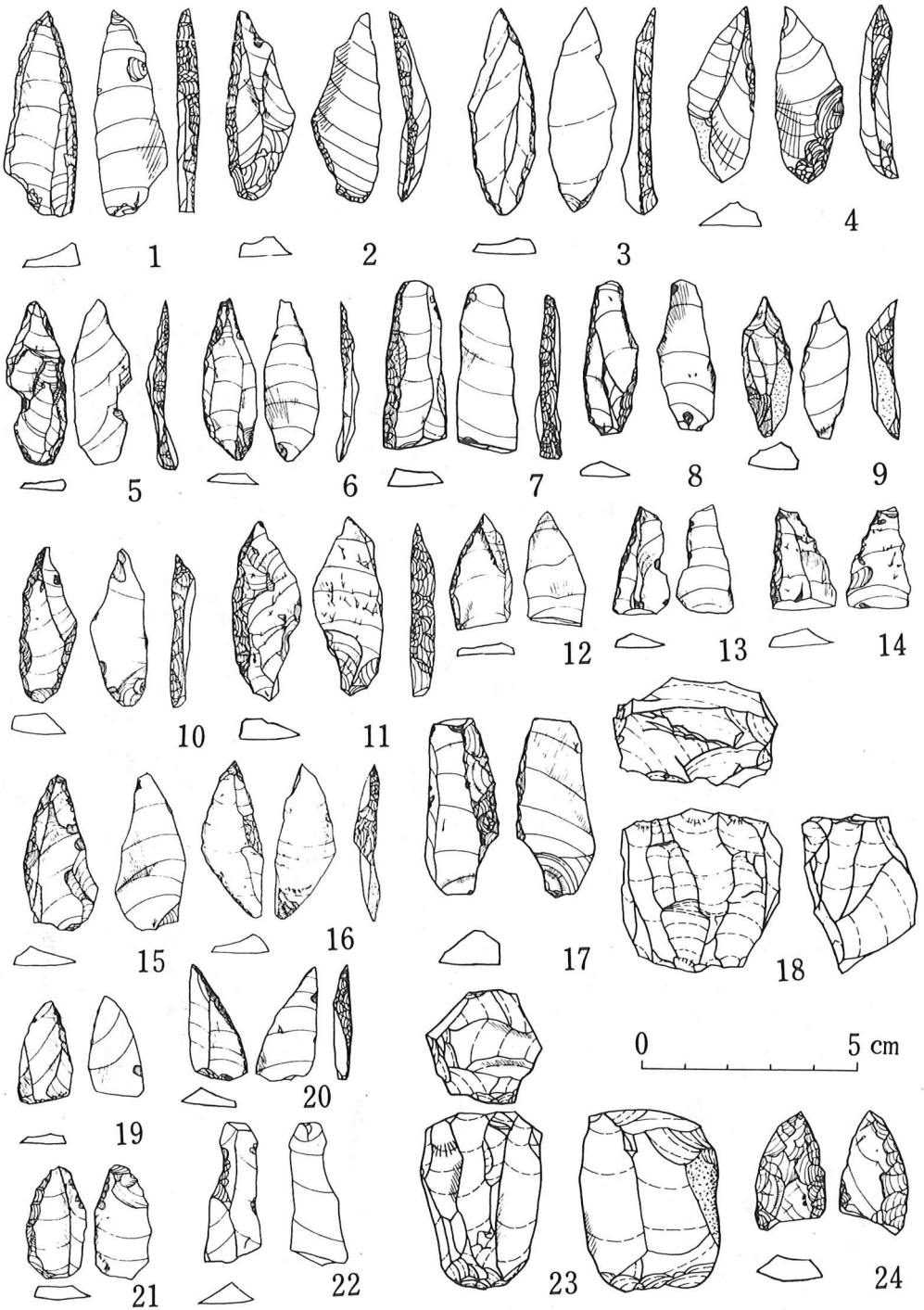
第39図 駿豆地方の旧石器実測図(7)

1～19—庚申松遺跡(1～18—ナイフ形石器, 9・10—細石刃, 11～13—尖頭器, 14～17—搔器, 18—彫器, 19—石核)



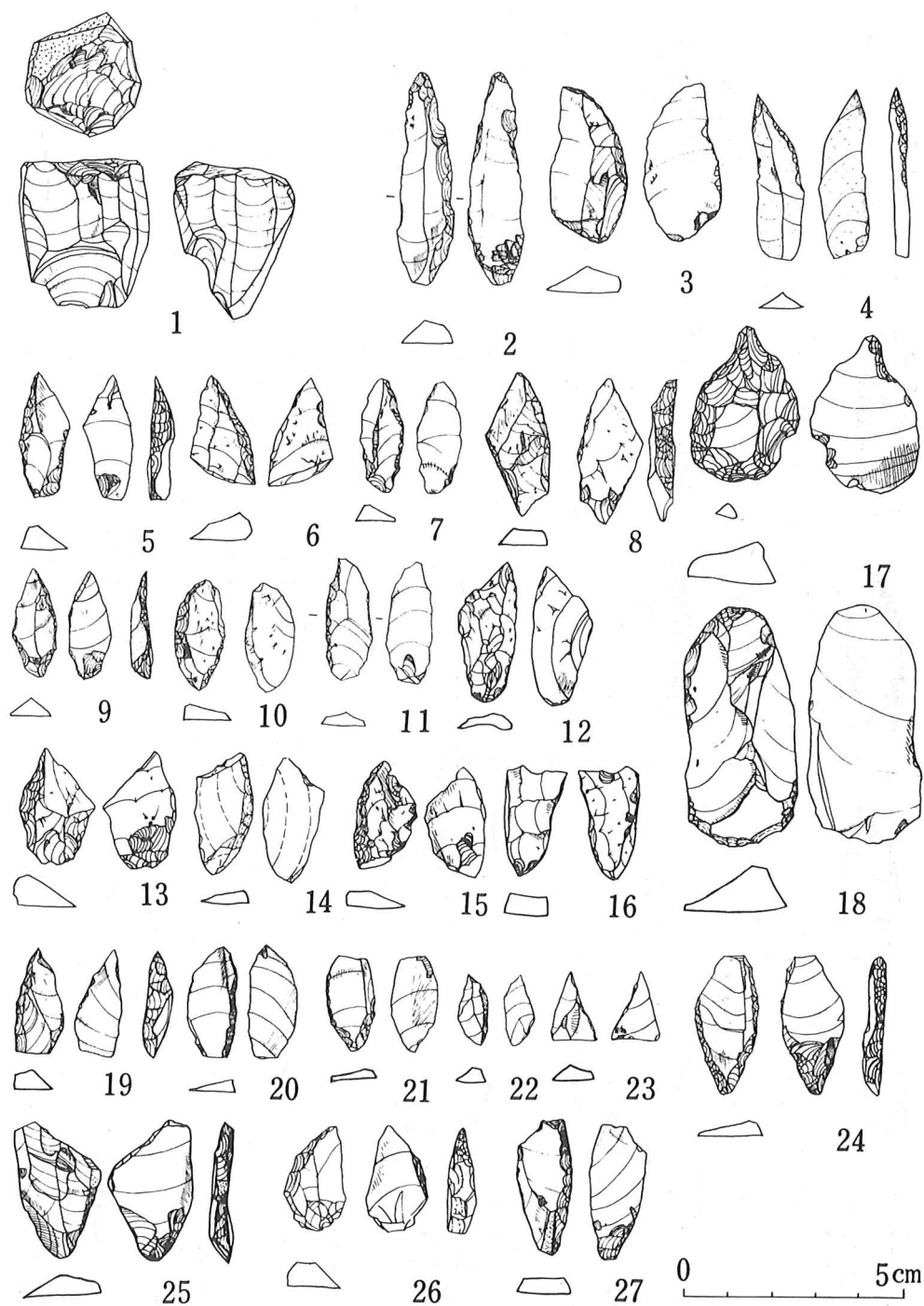
第40図 駿豆地方の旧石器実測図(8)

1～4—庚甲松遺跡, 5・6—台崎A遺跡, 7—台崎C遺跡, 8・9—赤松遺跡, 10・11—カシラガシ遺跡, 12～15—奥山遺跡(5～8・10～15—ナイフ形石器, 9—尖頭器, 1・4—石核, 2・3—細石核)



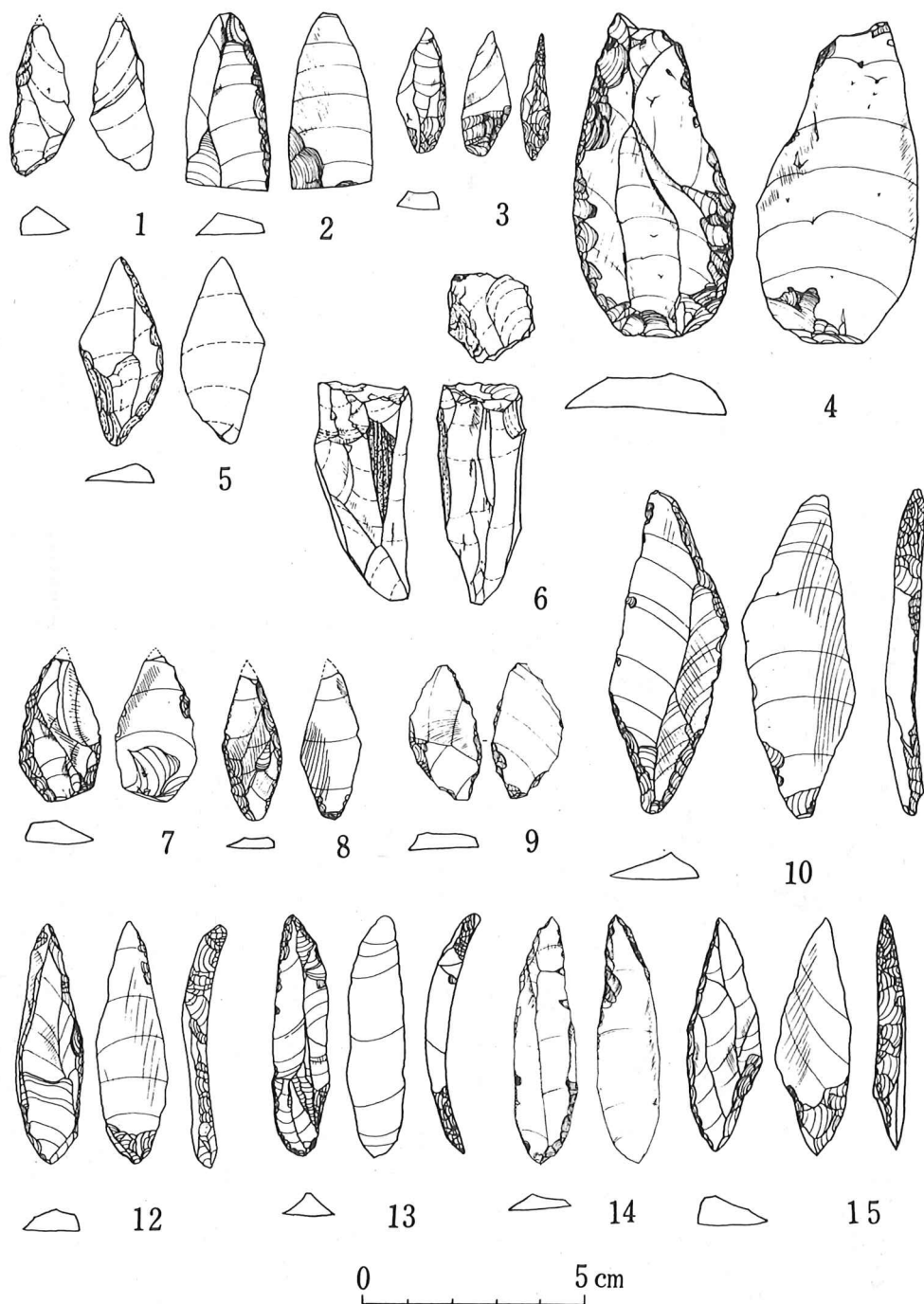
第41図 駿豆地方の旧石器実測図(9)

1～24—北原遺跡(1～17・19～21—ナイフ形石器, 24—尖頭器, 22—扶入り
削器, 18・23—石核)



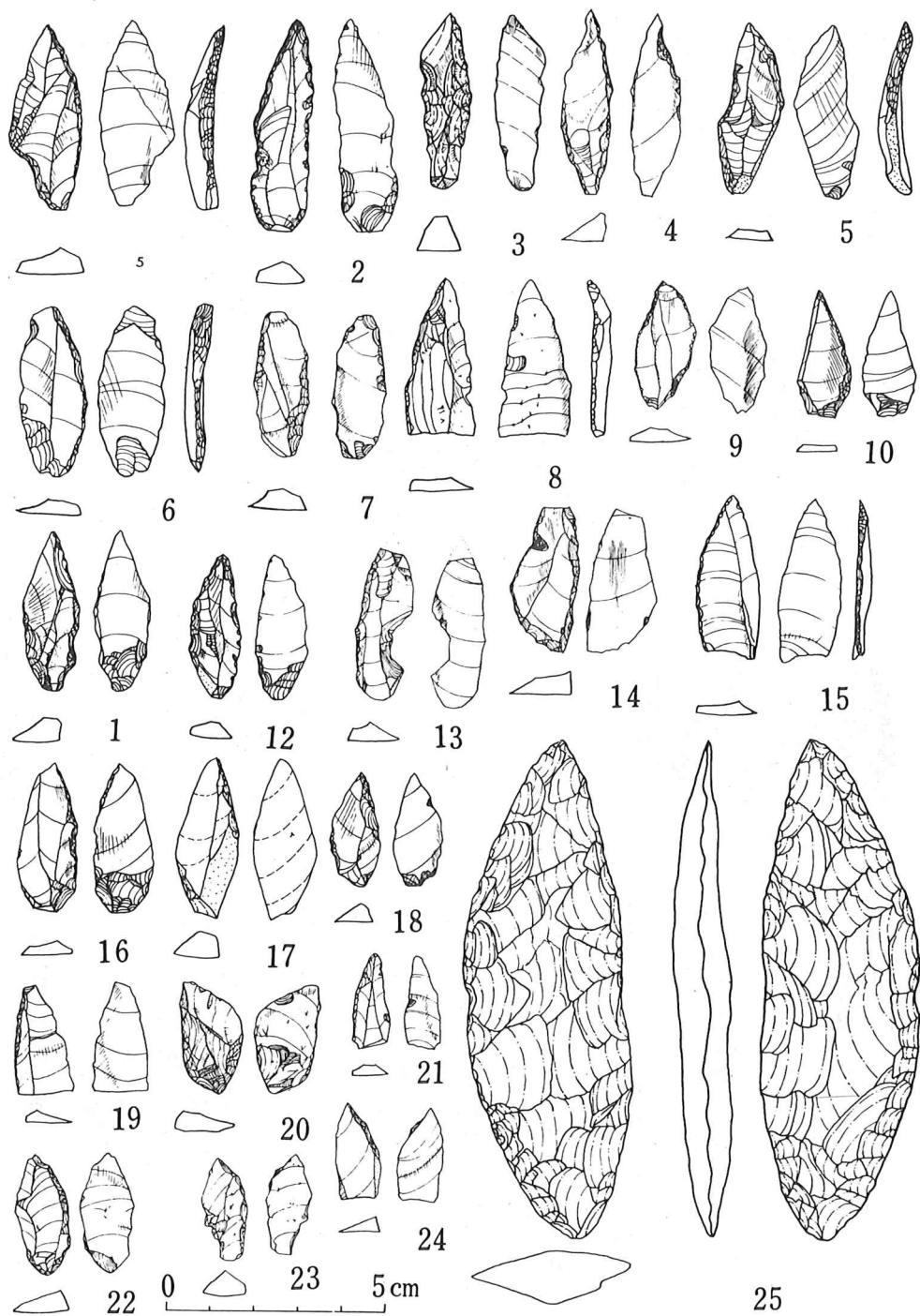
第42図 駿豆地方の旧石器実測図 (10)

1—北原遺跡, 2—18・28—初音ヶ原A遺跡, 19—27—初音ヶ原B遺跡
(2—16・19—28—ナイフ形石器, 17・18—搔器, 1—石核)



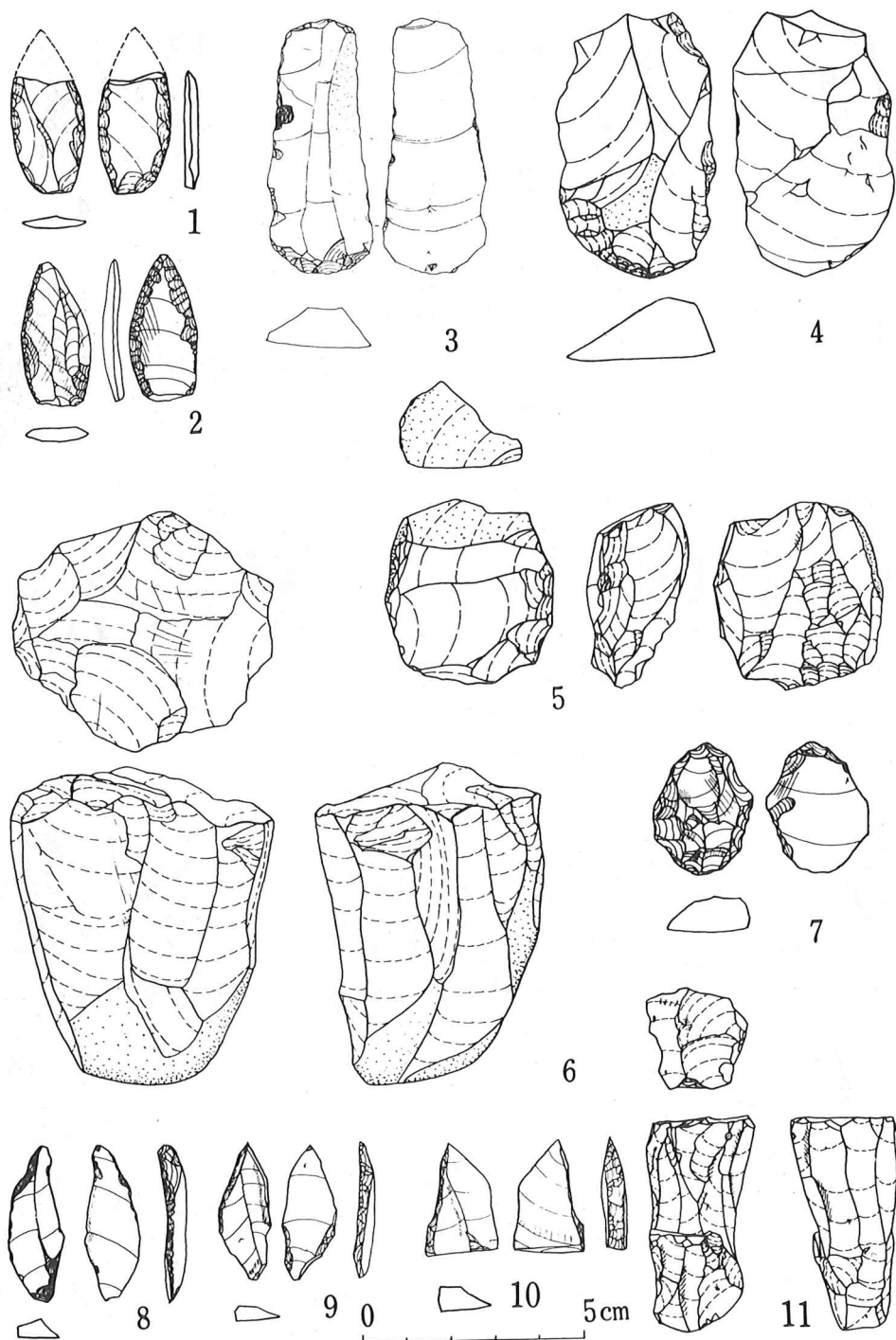
第43図 駿豆地方の旧石器実測図 (11)

1～6—初音ヶ原B遺跡, 7・8—初音遺跡(仮称) 9—三本松遺跡, 10～15—上原遺跡 (1～3・5・7～15—ナイフ形石器, 4—削器, 6—石核)



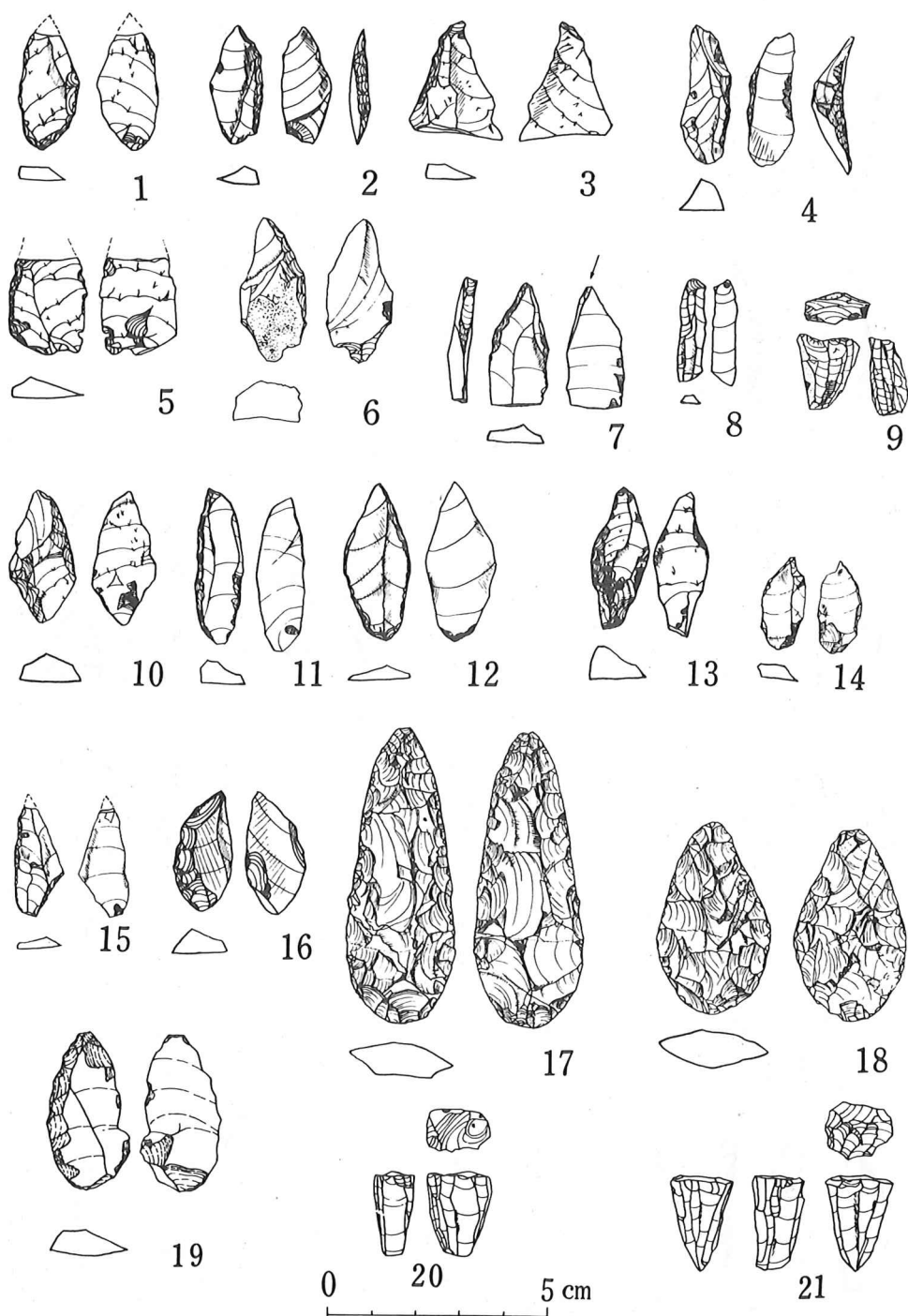
第44図 駿豆地方の旧石器実測図 (12)

1～25—上原遺跡 (1～24—ナイフ形石器, 25—尖頭器)



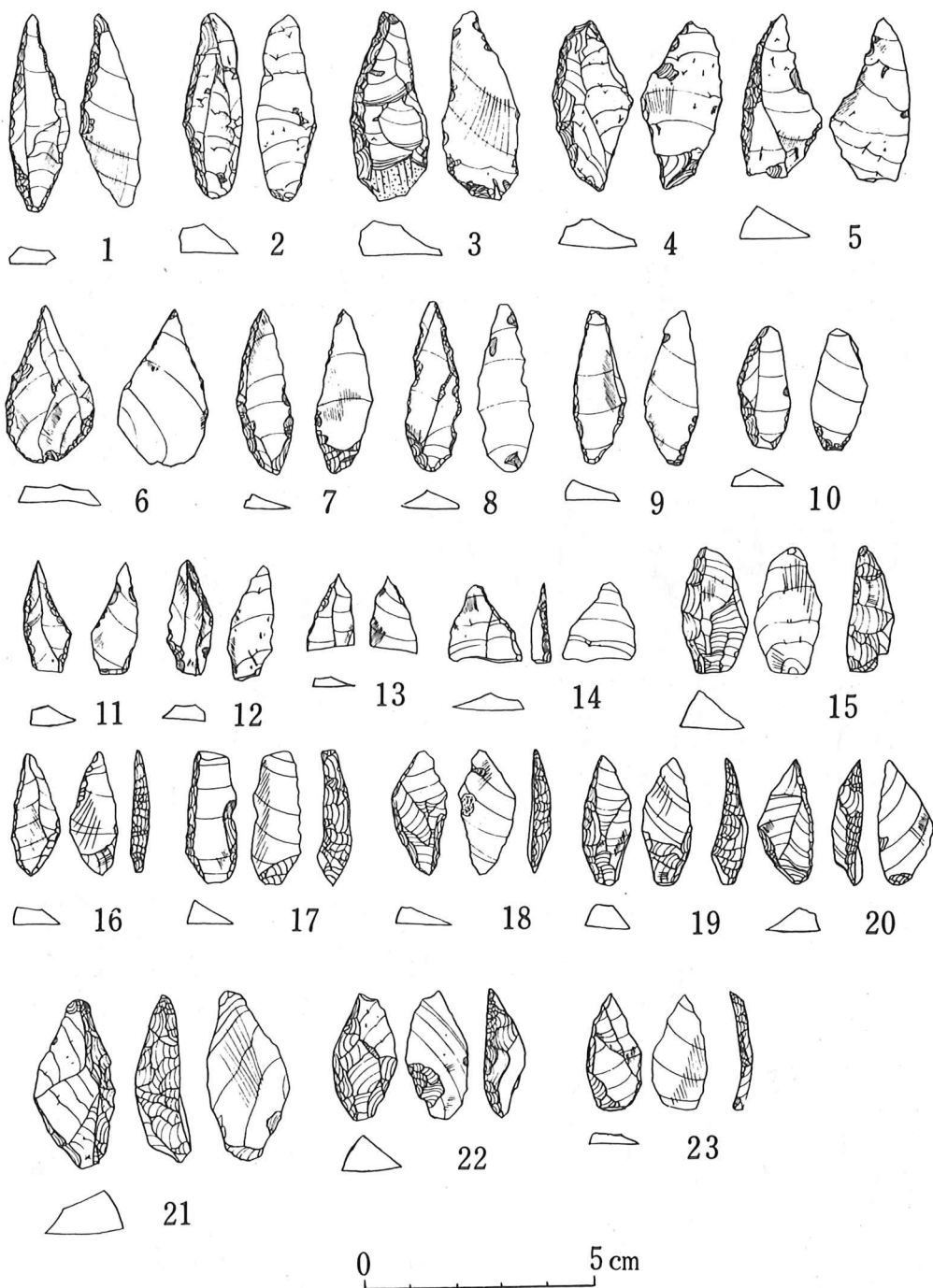
第45図 駿豆地方の旧石器実測図 (13)

1～7—上原遺跡, 8～11—下原遺跡 (1・2—尖頭器, 8～10—ナイフ形石器, 3・4・7—搔器, 5・6・11—石核)



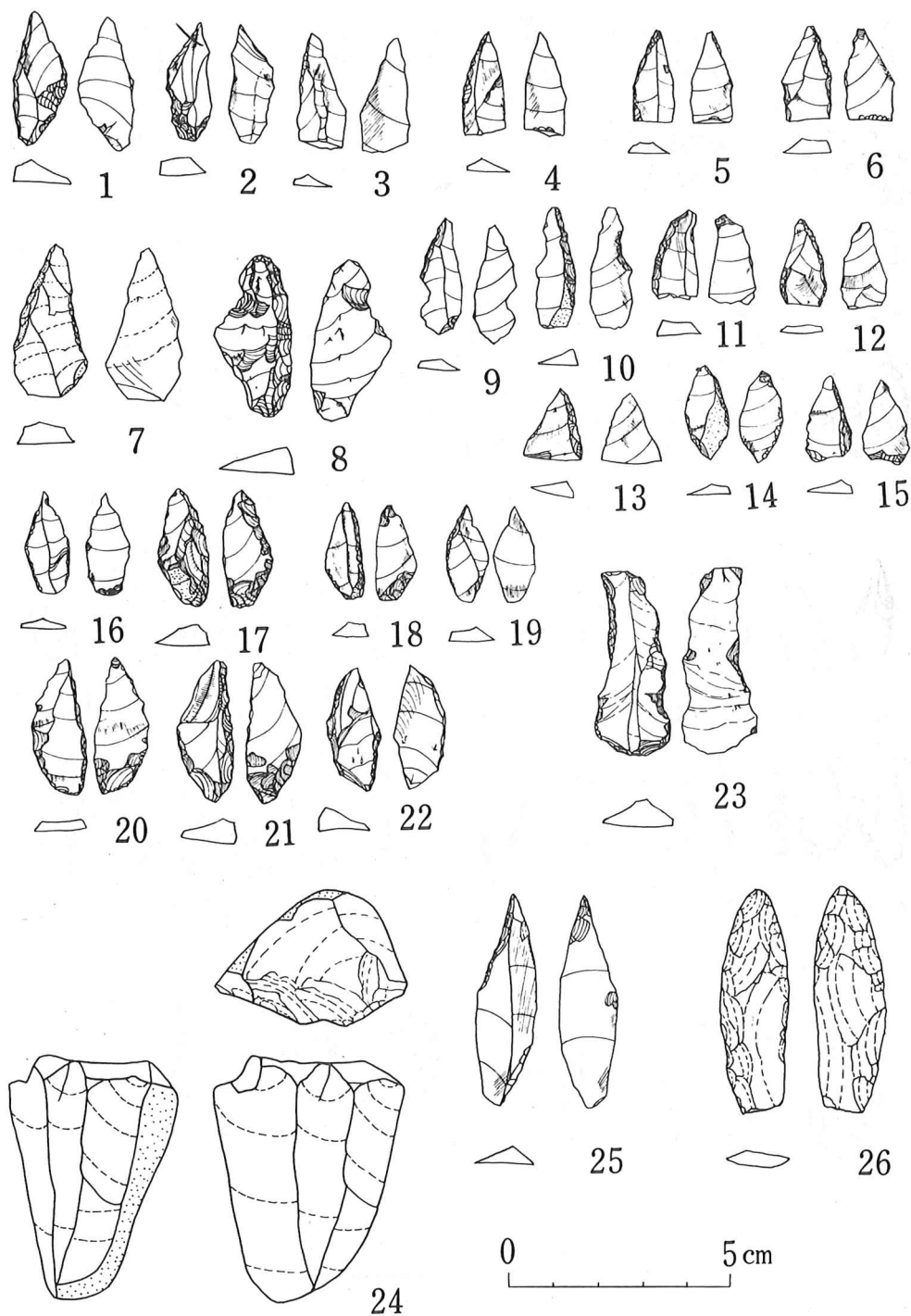
第46図 駿豆地方の旧石器実測図 (14)

1～9—下入原遺跡, 10～12—北甚助遺跡, 13・14—高天ヶ原遺跡, 15—台遺跡, 16—日向山遺跡, 17・18—大越遺跡, 19—猫山遺跡, 20・21—尾尻遺跡,
(1～6・10～16・19—ナイフ形石器, 17・18—尖頭器, 7—彫器, 8—細石
刃, 9・20・21—細石核)



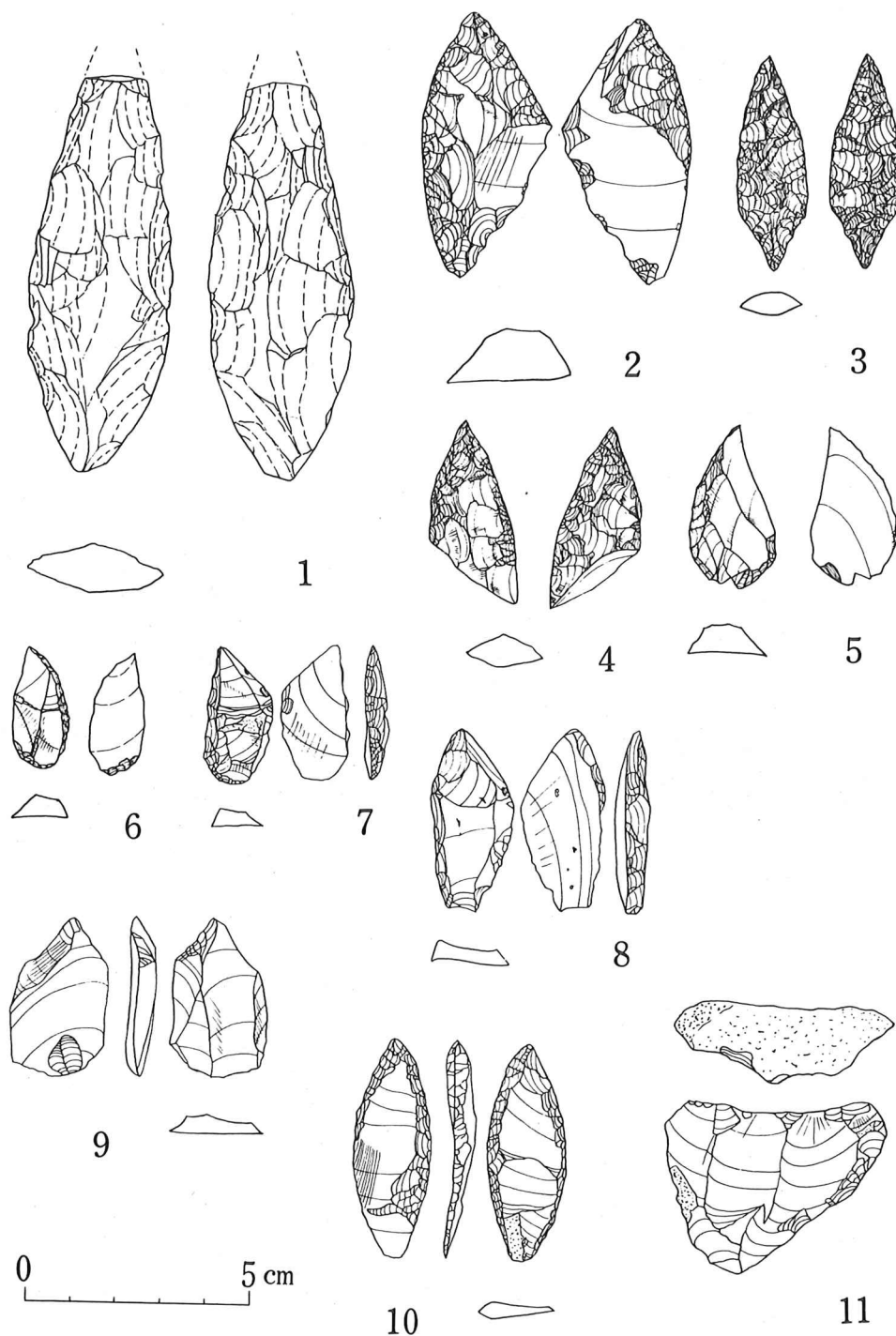
第47図 駿豆地方の旧石器実測図 (その15)

1～23—大廓遺跡 (1～23—ナイフ形石器)



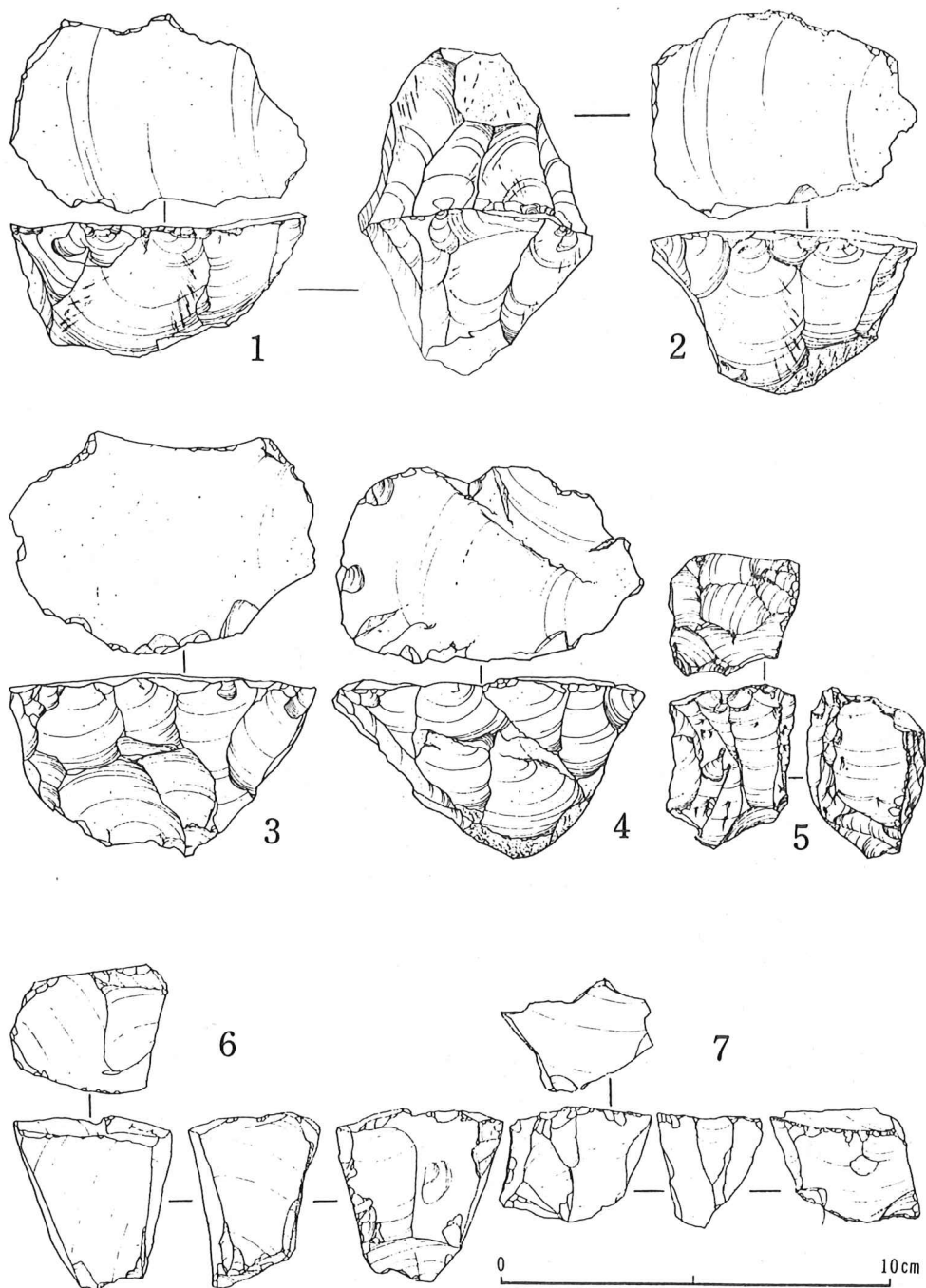
第48図 駿豆地方の旧石器実測図 (その16)

1～24—伊良宇根遺跡, 25～26—久保上遺跡, (1～22・25—ナイフ形石器, 23—搔器, 24—石核, 26—尖頭器)



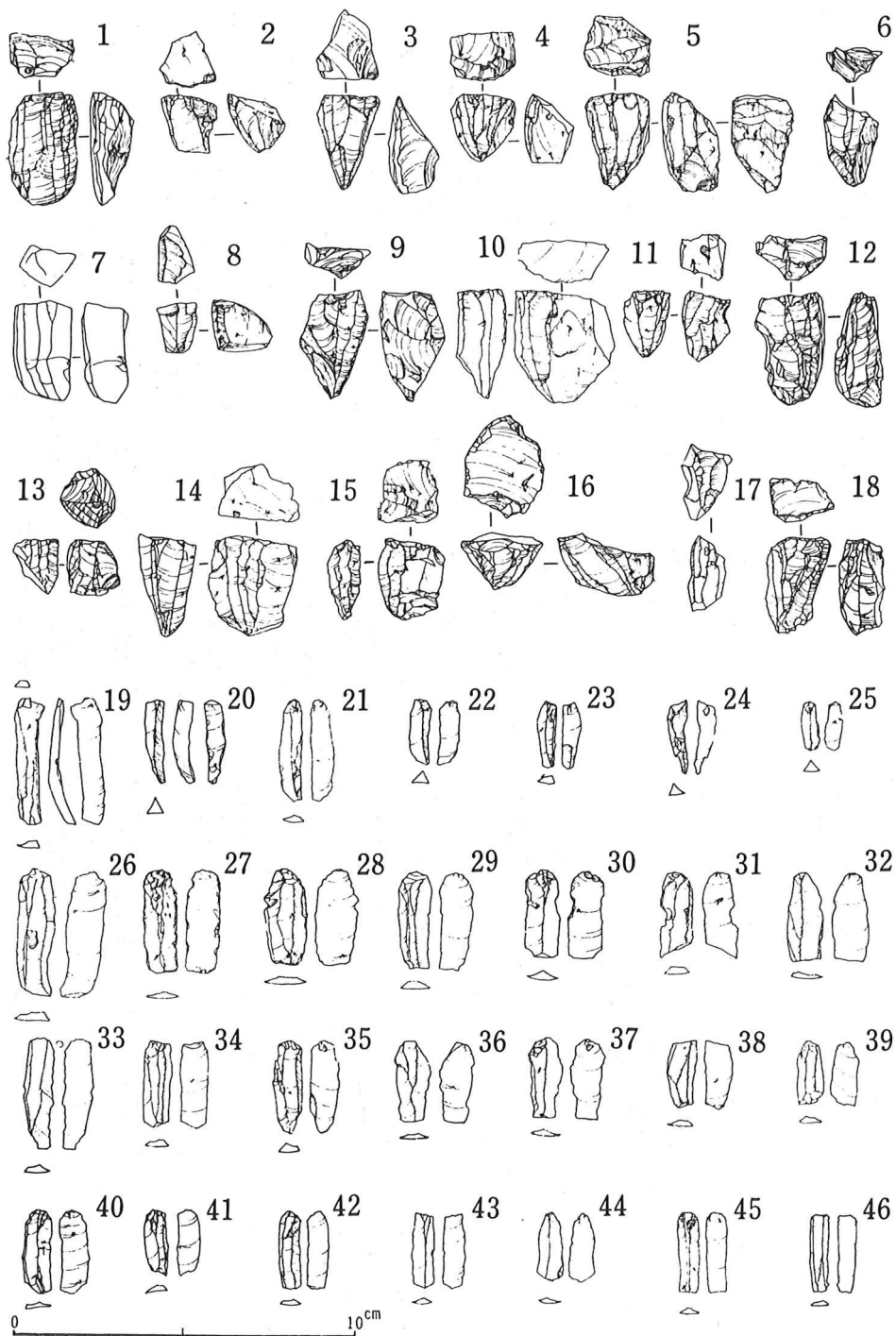
第49図 駿豆地方の旧石器実測図 (17)

1—天神原遺跡, 2～5—小森遺跡, 6—千居遺跡, 7～11—クズ原沢遺跡,
(1・4・10—尖頭器, 2～8—ナイフ形石器, 2—尖頭様石器, 9—彫器?,
11—石核, 3—有舌尖頭器)



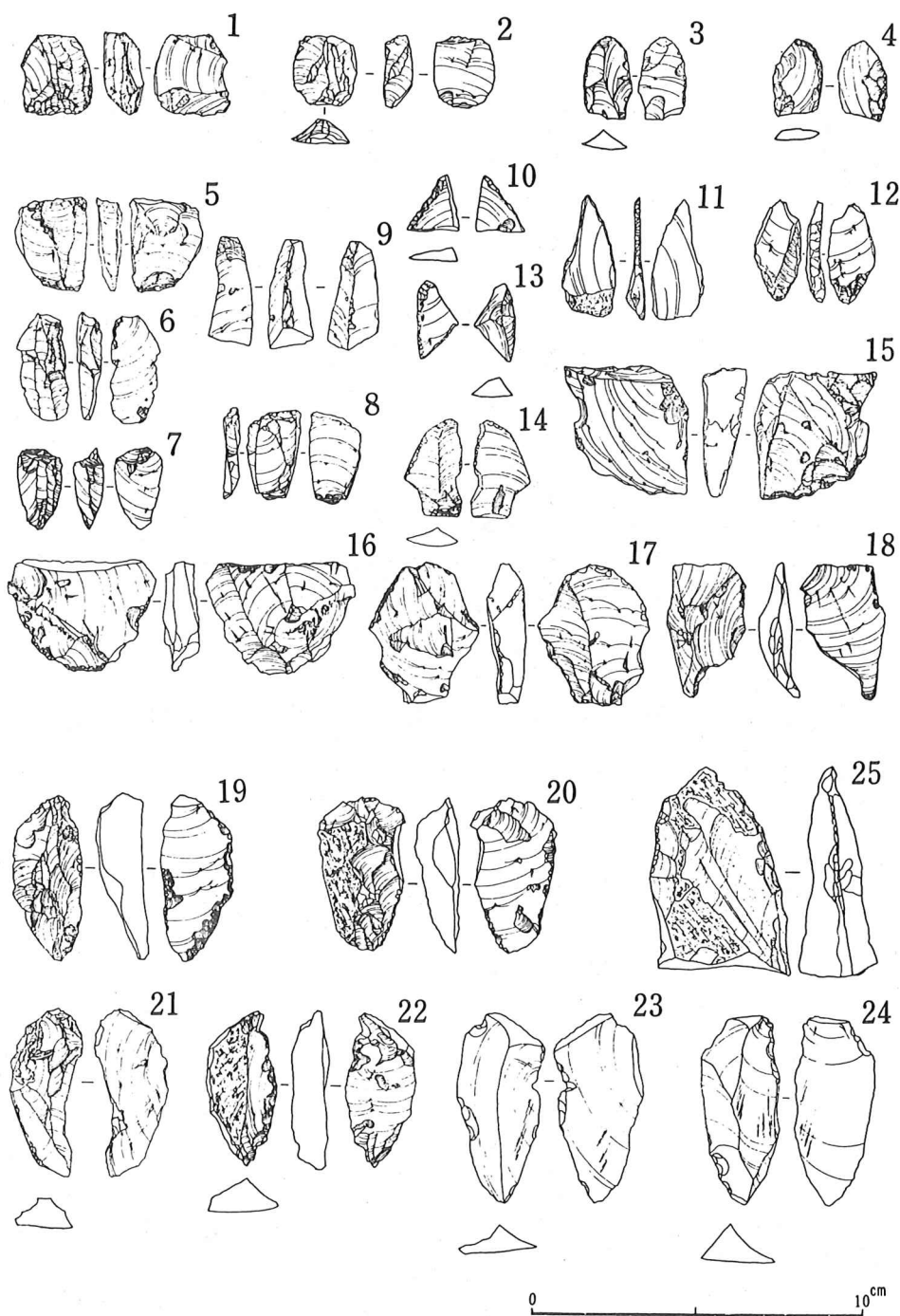
第50図 駿豆地方の旧石器実測図 (18)

1～7—休場遺跡 (1～7 石核) 考古学集刊第3巻第2号より



第51図 駿豆地方の旧石器実測図 (19)

1～46—休場遺跡 (1～18—細石核, 19～46—細石刃) 考古学集刊第3巻第2号より



第52図 駿豆地方の旧石器実測図 (20)

1～25—休場遺跡 (1・2—搔器, 3・4—爪形石器, 5～8—彫器, 11・12—ナイフ状石器, 15～18・25—大型剥片石器, 19～24—刃器状剥片, 9・10・13・14—その他) 考古学集刊第3巻第2号より